

胃底腺型胃癌の H.pylori 感染の有無による臨床像の比較

東北労災病院胃腸科

【背景】胃底腺型胃癌（以下 GA-FG）は、当初 H.pylori 陰性胃癌の代表とされ、H.pylori 未感染例に発症するとされてきた。しかし近年 H.pylori 感染例の報告も増加しつつあり、両者の背景に何らかの相違が有るかは不明である。

【目的】今回我々は当院にて経験した GA-FG の H.pylori 感染の有無および感染の有無による臨床像の比較を行った。

【方法】2009 年から 2017 年 2 月まで当院にて診断または内視鏡的治療を行った GA-FA21 例（22 病変）を対象として、H.pylori 感染の有無、未感染例（A 群）と感染例（B 群、除菌後の陰性例も含む）の年齢、性別、腫瘍径、存在部位、深達度を比較検討した。H.pylori 感染診断は尿素呼吸試験か血清抗体にて判定した。ただし、内視鏡的に明らかな胃粘膜萎縮を認めるも血清抗体価が 3 以下の 4 例は既感染の可能性もあるため、検討から除外した。

【結果】21 例中、未感染例 10 例 47.6%（11 病変）、感染例 11 例 52.4%（11 病変）であった。診断時平均年齢 63.7 歳（A 群）vs63.0 歳（B 群）（ $p=0.99$ ）、男女比は A 群 5（50.0%）対 5（50.0%）、B 群 8（72.7%）対 3（27.3%）（ $p=0.39$ ）、腫瘍径は A 群 5mm 未満が 4 病変（36.4%）、5mm 以上が 7 病変（63.6%）、B 群が 5mm 未満が 3 病変（27.3%）、5mm 以上が 8 病変（72.7%）（ $p=0.65$ ）と両群間で差はみられなかった。存在部位は A 群は 11 病変全てが U 領域であったが、B 群では U 領域が 8 病変（72.7%）、M 領域が 3 病変（27.3%）（ $p=0.06$ ）で、B 群で M 領域も発生がみられたが、有意差はなかった。深達度は、A 群においては深達度 M が 5 病変（45.5%）、SM が 6 病変（54.5%）、B 群では深達度 M が 6 病変（54.5%）、SM が 5 病変（45.5%）（ $p=0.67$ ）であった。いずれにおいても優位差は認められなかった。

【結論】GA-FG の 60%は H.pylori 未感染例で、従来の胃癌に比較すると高率ではあったが、感染例からの発症も稀では無いと考えられた。H.pylori 感染の有無による GA-FG の臨床像には差が見られなかったが、感染例では M 領域にも発生がみられた点は注意を要すると考えられた。

（問い合わせの窓口）

東北労災病院

所在地：〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原四丁目 3 番 2 1 号

電話：022-275-1111

担当者氏名：胃腸科 柵津 寧子